

認定心理士の会から

あなたの世界が広がる一步を

今日は私の経験からイベント参加についてご案内したいと思います。私は被災時に様々な心模様に触れたことをきっかけに心理学を勉強し始め、認定心理士の資格を取得して3年になります。学んだ心理学は日々の自己観察を第一に、仕事や社会生活でも活用しており心理学は私にとってはなくてはならない大切な道具です。しかし、使いこなすことは容易ではなく、手になじむ切れ味のよい包丁のようにするために日々の研鑽が必要と感じるも、大学卒業後は心理学を学ぶ機会はほとんどなくなっていました。そんなときに知ったのが認定心理士の会イベントです。全国各地・オンラインで開催され、テーマは豊富、住んでいる地域に限定されずどこの地域のイベントにも参加可能、しかも参加費は無料！なんと有難いことかと、テーマを選ばず、開催日に都合がつくイベントには参加する

ようになりました。最初は一人で参加する不安や心理系職業ではないことへの気おくれもあり申し込むことに躊躇していましたが、一步踏み出してみるとイベントには一人で参加している方が多く、また、様々な業界に身をおく方々が参加されており、日常では全く接点のない方々とも心理学が介在することで共通の話題が生まれ興味深いお話に触れることもできます。そして、参加している認定心理士の方や先生方との交流の機会から横の繋がりも生まれます。私はイベント参加で認定心理士の友人ができ、チームを作って防災のシチズン・サイエンス活動をするようになりました。何が自分の世界を広げるきっかけになるかわかりません。ぜひ、世界を広げる一步を。イベント情報は日本心理学会ホームページまたは認定心理士の会フェイスブックにてご案内しています。認定心理士の会では皆様のご参加を心よりお待ちしております。(認定心理士の会運営委員会委員 竹中あかり)

若手の会から

大学の研究者が企業や地域と 共同関係を結ぶために必要なこととは？

今年の日本心理学会では、上記のテーマで、大会企画シンポジウムを若手の会で実施させていただきました。

私自身、博士論文まで大学生を対象としたアナログ研究を主としており、博士号取得後、新たなコミュニティと手を組み、研究を展開することの難しさを感じていました。

本シンポジウムでは、教育、企業、スポーツ領域の方と共同研究を実施している先生方（順に、明治学院大学：山田達人先生、東京家政大学：岡島義先生、東京大学：工藤和俊先生）とその共同研究者（順に、埼玉県ふじみ野市立大井東中学校：守谷喜光先生、NECソリューションイノベータ：秋富穰先生、JLPGA公認女子プロゴルファー：菅野仁美先生）にお越しいただき、共同関係の構築や研究フィールド開拓のチャンスを得るために、研究者に求められる要素につ

いて議論を行いました。

先生方との議論を通して、「研究者は自身の要求だけではなく、相手側のニーズを把握し、それを満たすこと」「相手に柔軟に合わせる」「礼節を重んじる」「誰でも良いのではなく、なぜあなたと研究をしたいのか、なぜ〇〇学校で調査をとらせてほしいのかを明確に伝えること」「義理や恩の有無」「知見のフィードバックが実際に役立つ内容になっているか」などの内容が共同関係の構築や研究フィールドの開拓に必要な要素として浮かび上がってきました。

これらの要素は研究だけではなく、全ての社会的なやり取りで重要な要素だと思います。産学連携のマッチングシステムや調査会社への委託など、便利さが加速する世の中ですが、最終的には「人と人」で成り立っているということをお忘れずに研究を進めていきたいと思いました。

本シンポジウムが心理学領域のさらなる発展と一隅を照らすことにつながれば幸いです。

(若手の会代表幹事 井上和哉)